

## (3) 評 価

## ① 評価の方法

評価は、環境の保全上の目標と予測結果および環境保全のための措置を対比し、その整合性を検討するとともに、騒音・振動の影響が実行可能な範囲内で回避または低減されるか否かについて検討することで行った。

## ② 環境保全のための措置

環境保全のための影響の回避・低減対策は以下のとおり計画している。

## A. 工事中

- ・工事の効率化・平準化に努め、工事用車両台数をできる限り削減する。
- ・工事用車両の走行に関しては、過積載を防止し、積荷の安定化、制限速度の遵守、空ぶかしの防止、アイドリングストップの遵守等、適切な運行を指導する。
- ・工事関連車両の走行ルートや時間帯は、道路規格、周辺道路の状況、住居の立地状況などに配慮し、効率的で環境負荷が小さくなるよう、計画的な運行管理を行う。
- ・使用する建設機械は、可能な限り最新の低騒音型の車種を採用するように努め、適切に点検・整備を実施するとともに、同時稼働や高負荷運転のできる限りの回避、アイドリングストップの遵守等の適切な施工管理を行う。
- ・工事区域の周囲に仮囲いを設置し、騒音の遮蔽に努める。

## B. 各区画の販売時

- ・立地企業への販売時に説明事項として当該地域の騒音・振動の規制基準や低周波音に係る防止措置等、環境配慮の内容を記載し、説明内容の同意を得る。

## ③ 環境の保全上の目標

環境の保全上の目標は、人の健康の保護上および生活環境の保全上支障を招かないことを基本として設定した。

騒音については環境基準が設定されていることから、環境の保全上の目標は次のように設定した。振動については生活環境の保全上支障を生じないこととの考え方から、環境の保全上の目標は次のように設定した。低周波音については環境基準、規制基準値等は設定されておらず、感覚については個人差が大きいことから環境の保全上の目標は次のように設定した。

対象事業実施区域周辺地域の環境基準の達成状況に影響を及ぼさないこと。  
道路沿道地域については、事業の実施による騒音レベルの寄与が大きいこと。  
対象事業実施区域周辺地域の振動レベルを、大部分の住民が日常生活において振動を感知しない程度（55デシベル以下）とすること。  
大部分の住民が日常生活において低周波音を感知しないこと。

#### ④ 環境の保全上の目標との整合性の検討

##### A. 工事中の重機類稼働による騒音・振動の影響

重機類の稼働による騒音レベルの予測結果は、周辺住居のNo. 4地点～No. 6地点では、いずれのケースでも将来レベルは50デシベルを下回り、環境基準を満足すると予測されたが、No. 3地点の白寿荘ではケース2の着工後26ヶ月目に寄与レベルが高く、60デシベルを上回り、将来レベルは現況より1.5デシベル高くなると予測された。ケース1の着工後8ヶ月目とケース3の着工後39ヶ月目でも寄与レベルは50デシベルを上回るが、将来レベルの上昇は1デシベル未満と予測された。町道の沿道に位置する白寿荘では現況でも昼間の時間帯は環境基準値を上回っており、重機類の稼働による騒音レベルの増加は1.5デシベルで大きなものではないため、環境の保全上の目標と整合しているが、特別養護老人ホームという特に静穏を要する施設の特性を考慮すると、重機類の稼働による騒音の増加は小さくすべきであり、以下の環境保全のための措置を講じる。

- ・白寿荘側で稼働する重機類はできるだけ小型のものを使用する。

振動レベルの予測結果は、重機類の稼働による振動の影響を受ける可能性があるのはNo. 3地点の白寿荘で、いずれのケースでも寄与レベルは30デシベル以上であり、将来レベルは人の振動体感閾値(55デシベル程度)を下回ると予測され、その他の地点については振動の寄与レベルはいずれのケースでもほとんどが25デシベル未満であり、将来レベルは現況と変わらないと予測されたことから、環境の保全上の目標と整合している。

##### B. 工事中の関係車両通行による騒音・振動の影響

工事関係車両通行時の騒音レベルは71.9デシベルと予測され、環境基準値を超過するが、予測地点では現況でも環境基準は満足しておらず、工事関連車両交通による騒音レベルの増分は0.2デシベルにとどまると予測されたことから、環境の保全上の目標と整合している。

工事関係車両通行時の振動レベルは54デシベルと予測され、人の体感振動閾値(55デシベル程度)を下回ると予測され、環境の保全上の目標と整合している。

### C. 供用後の施設稼働による騒音・振動の影響

供用後の施設稼働による騒音レベルは、No. 3の白寿荘で昼間67.0デシベル、No. 4の安部居で昼間56.6デシベル、No. 5の鳥居平新田で昼間59.5デシベル、No. 6の松尾1区で昼間57.7デシベルと予測され、白寿荘、鳥居平新田と松尾1区では環境基準値を超過し、騒音レベルの増分は最大17.3デシベルと予測されたことから、環境の保全上の目標と整合していない。また振動レベルは、No. 4の安部居とNo. 6の松尾1区では現況から変化はないものの、No. 3の白寿荘で昼間61デシベル、No. 5の鳥居平新田で昼間41デシベルで、No. 3の白寿荘では人の体感振動閾値(55デシベル程度)を上回ると予測されたことから、環境の保全上の目標と整合していない。

予測条件では発生源のレベルが敷地境界の規制基準となるよう設定したが、実際の施設稼働時の状況に関しては不確定な部分が多く、供用後の施設稼働に関して工業団地造成の事業者が講じることのできる環境保全措置はないが、特別養護老人ホームという特に静穏を要する施設の特性を考慮すると、施設の稼働による騒音・振動の影響は小さくすべきであることから以下の環境保全のための措置を講じる。

- 1) 宅地①Aについては敷地境界における騒音・振動レベルを、⑩、⑪については敷地境界における騒音レベルを規制基準より5デシベル程度下げて施設を運用できる企業に販売する。これにより各予測地点における供用後の工場等からの騒音、振動の影響は以下のように低減すると予測される。

表7-2-14 環境保全対策後の騒音レベル・振動レベル

騒音	No. 3地点 白寿荘		No. 4地点 安部居		No. 5地点 鳥居平新田		No. 6地点 松尾1区	
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
寄与レベル	59.1	52.0	54.8	47.3	57.8	50.1	55.6	48.3
バックグラウンドレベル	65.7	55.2	44.1	41.9	42.2	40.4	45.9	41.9
将来レベル	66.6 (0.4)	56.9 (0.2)	55.2 (1.5)	48.4 (0.5)	57.9 (1.6)	50.5 (0.7)	56.0 (1.7)	49.2 (0.5)
環境基準	65以下	60以下	65以下	60以下	55以下	45以下	55以下	45以下
振動	No. 3地点 白寿荘		No. 4地点 安部居		No. 5地点 鳥居平新田		No. 6地点 松尾1区	
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
寄与レベル	57	52	-22	-27	41	36	3	-2
バックグラウンドレベル	38	25	28	25	25	25	25	25
将来レベル	57 (4.1)	52 (4.1)	28	25	41	36	25	25

注) 将来レベルの( )内は環境保全のための措置を講じる前の数値からの削減量

- 2) 白寿荘周辺のその他の宅地についても企業誘致に当たっては低騒音・低振動の企業を優先し、既存工場等が操業している企業については現地視察で状況を確認する。
- 3) 白寿荘周辺の残置森林区域で樹木が衰退している箇所については補植する。

#### D. 供用後の施設稼働による低周波音の影響

通常の工場で発生する程度の低周波音では影響は生じないと予測され、環境の保全上の目標と整合しているが、仮に供用後の施設から130デシベルを越える低周波音が発生した場合を想定すると、白寿荘においては人の低周波音の感覚閾値の90デシベルを上回る可能性は否定できないと考えられることから、以下の環境保全のための措置を講じる。

- 4) 発生する低周波音を130デシベル以下になるよう要請する。

#### E. 供用後の関係車両通行による騒音・振動の影響

供用後の関係車両通行時の騒音レベルは、No. 1の安部居で最大74.1デシベル、No. 2の日野病院前で最大71.4デシベル、No. 3の白寿荘で最大76.1デシベルで、すべて環境基準値を超過すると予測され、供用後の関連車両交通による騒音レベルの増分は最大12.7デシベルと予測されたことから、環境の保全上の目標と整合していない。また供用後の関係車両通行時の振動レベルは、No. 1の安部居で最大56デシベル、No. 2の日野病院前で最大44デシベル、No. 3の白寿荘で最大57デシベルと予測され、No. 1の安部居とNo. 3の白寿荘では人の体感振動閾値(55デシベル程度)を若干上回ると予測されたことから、環境の保全上の目標と整合していない。

供用後の交通量に関して工業団地造成の事業者が講じることのできる環境保全措置はないが、特にレベルの増加が著しい白寿荘前を通過する車両台数が少なくなるよう、北側への関連車両の一部が工業団地内道路から町道鳥居平安部居線を経由し、東り前の三叉路を通行できるよう、日野町に対して早期に道路の改良が行われるよう要望する。

また事業者として、立地企業に対して送迎シャトルバスの運用を検討するよう要請するほか、日野町に対しても町営バスの路線開設を要請する。

### ⑤ 評価

予測を行った各項目について、予測結果と環境の保全上の目標と整合が取れていない項目については環境保全措置を講じることから、実行可能な範囲で影響を回避または低減できていると評価する。